

P23 急性胃粘膜病変に対する SAIDO-PS501 の予防効果

○村上真樹^{1,2}、高山房子¹、江頭 亨¹、今尾充子²、万倉三正¹、川崎博己¹、岡田 茂³、森 昭胤³

¹岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（薬学系）、²株式会社済度、³岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（医学系）

【目的】近年、心因性のストレスが様々な疾患に関係することが報告されており、ストレス性潰瘍もその一つである。その病態発症メカニズムには好中球の活性化や酸化ストレスの関与が報告されている。一方、パパイア発酵食品 SAIDO-PS501 について、抗酸化能と酸化ストレスが関与する疾患への有効性が報告されている。そこで本研究は、水浸拘束ストレス(WIRS)誘発急性胃粘膜病変モデルラットを用い、SAIDO-PS501 の予防効果の検討および作用メカニズムを検討した。【方法】6 週齢の Wistar 系雄性ラットに水または SAIDO-PS501 水溶液を 2 週間経口投与し、24 時間の絶食後、WIRS を 6 時間負荷した。その後、エーテル麻酔下にて試料を採取し、障害を検討した。【結果】WIRS ラットにおいて、胃粘膜に点状出血と病変部位形成が認められた。さらに、胃粘膜組織への好中球の浸潤が惹起されており、血漿中および胃粘膜中の脂質過酸化亢進と抗酸化活性低下を認めた。これに対し、SAIDO-PS501 の経口投与は WIRS で惹起されるこれらの変化を用量依存的に抑制した。【考察】心因性ストレス誘発急性胃粘膜病変の進展には、好中球浸潤や抗酸化活性低下などによる酸化ストレスの関与が示唆され、SAIDO-PS501 は酸化ストレス低減作用により予防効果を発揮したと考えられる。